

◎ 2021年度同門会 理事長賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）

新田 信人（平成 25 年卒）



この度は、同門会賞という大変光栄な賞を賜り、誠にありがとうございます。受賞させて頂きました「Prognostic impact of pancreatic invasion in duodenal carcinoma: A single-center experience, *Annals of Surgical Oncology* (2020) 27:4453-4560」は、前任地の静岡県立静岡がんセンター 肝胆膵外科で作成させて頂いた論文です。静岡がんセンターは、国内有数の High Volume Center であり、診断・手術手技・術前術後管理といった臨床的能力だけでなく、論文作成・学会発表といった学術的な能力も向上させることができ、非常に有意義な研修を送ることができました。本論文は消化器がんでは稀少である十二指腸がんに関する報告です。その稀少さ故に、予後因子などの臨床病理学的特徴が十分に解明されていません。同じ膵頭部領域に位置する胆管がん・十二指腸乳頭部がんでは膵臓浸潤が予後因子であると報告されています。本論文では十二指腸がんの膵臓浸潤に着目し、膵臓浸潤が予後因子であったことを報告しました。また、膵臓浸潤を認めた十二指腸がんは、膵頭部領域がんの中で最も予後が悪い膵臓がんと生存成績が同等であったことも報告しました。本論文の作成にあたり、構想から投稿まで丁寧にご指導頂きました、静岡がんセンター 肝胆膵外科の大木克久先生に深くお礼を申し上げます。これまで私は、論文作成は臨床的能力の向上には寄与しないと考えていました。しかし、論文作成にあたり、多くの一流誌に触れ、十二指腸がんに関する知識を深めることができました。結果として、論文作成は臨床的能力の向上に繋がるものと考えています。この度賜りました同門会賞を励みに、滋賀医科大学 外科同門会のさらなる発展に寄与できるよう、今後も臨床・研究に邁進して参りますので、ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いたします。